

# 地域と共に

新日鉄では、これまで長年にわたり地域とともに発展し、歩んできました。全国の製鉄所で受け入れている工場見学数は、年間10万人にものぼります。「開かれた企業」を目指し、地域での祭りや各種スポーツ大会、音楽コンサートの開催など、さまざまな場を通して地域社会との交流・融合を深めてきました。

レポート

## 地域の小学校への「出張授業」と子どもたちからのメッセージ

### 八幡製鉄所からのレポート



「子どもたちに鉄づくりの素晴らしさやリサイクルの大切さをわかってもらいたい」 - 八幡製鉄所では、かねてより「ゲストティーチャー」として地元の小学校を訪問し、スチール缶のリサイクル活動や、地球環境と鉄との関係などをテーマに「出張授業」を行い、交流を深めています。今回は中原小学校の子どもたちとの3カ月にわたる交流を紹介します。

北九州市立中原小学校の5年生（昨年11月当時）では、社会科学習の一環として「わたしたちのくらしと工業生産 - 世界の鉄づくり・八幡製鉄所のひみつをさぐれ -」をテーマに選定し、9月から3カ月間八幡製鉄所と交流を深めた。工場長たちが「ゲストティーチャー」として中原小学校を訪問し「出張授業」をしたり、八幡製鉄所見学を受け入れたり、また商品サンプル研究に協力したりと、幅広い交流を図ってきた。

この間中心となって協力した生産業務部の河野マネジャーは、子どもたちが一生懸命勉強した学習成果を、協力した多

くの社員の前で発表してもらうことを企画。12月、約400名の八幡製鉄所所員を前に子どもたちによる発表会が行われた。

発表内容は、八幡製鉄所の高品質の鉄生産について、原料の調達から環境に配慮した生産プロセスにいたるまで、当所の環境への取り組みを評価していただいたもの。社員一同、多くの感動と感激を受け、勇気付けられたと言う。

「子どもたちは本当に素直で、真剣に鉄を見つめてくれました。ものづくりの素晴らしさ、リサイクルの大切さをわかっていただけたのではと思います。今後とも、地域をあげた息の長い取り組みを続けていきます」（河野マネジャー）

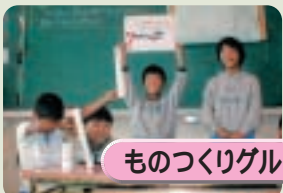
### 中原小学校と八幡製鉄所の交流

### 各グループの学習発表より



#### 原料グループ

「くらしを支える鉄をつくり続けるため、いろいろな国から鉄鉱石や石炭を輸入しています。ごみになるプラスチックも原料にしています」



#### ものづくりグループ

「鉄づくりは、働くひとの知恵やアイデアで常に進化しています」



#### 出張授業風景

ゲストティーチャーとして授業する河野マネジャー



#### エネルギーグループ

「必要なエネルギーは90%リサイクルしています。鉄をつくるときに出るガスなどで電気を発電し、水も繰り返しきれいに使っています」



#### 運び方グループ

「お客様の必要に応じて必要なだけ約束通り鉄を届けるようにして、信頼を大切にしています。つくった製品にきずやさびがつかないように、カバーをかけたリロープで固定したり、全天候バースを利用したりしています」



#### 工場配置グループ

「鉄くずなどもリサイクルして、むだがないようにしています。工場内に木や花を植えて、周りの環境を汚さないようにしたり、働くひとが気持ちよく働けるようにしたりしています」

### 中原小学校の先生からのお便り

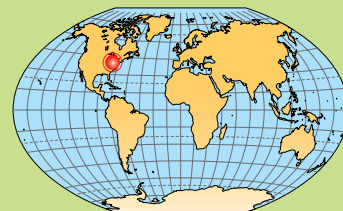
八幡製鉄所を社会科学習のテーマとしてとりあげたのは、日本において、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを、子どもたちに理解し考えてもらうことがねらいです。八幡製鉄所は地元を代表する企業であると同時に、昭和40年代から公害問題克服にいち早く取り組み、資源循環型生産にのりだした企業の一つです。子どもたちには、直接生産現場を見たり、そこで働く人と繰り返し

柳生 由紀子先生 高松 淳子先生

し交流したり、環境に配慮した生産の努力の姿や、日本の工業生産の現状を考えてもらいたいと思いました。

新日鉄の皆さんには、何度もゲストティーチャーとして授業に参加していただきました。社員の皆さんの前で、子どもたちは一生懸命学習の成果を発表することができ、とてもよい経験になったのではと思います。

今回、その中の2つのユニークな活動を紹介します。1つは、地元小学生と幅広い交流を続けている八幡製鉄所の取り組み。そして、もう一つは、「地域と共に発展する」精神を海外で展開しているシカゴ事務所の芸術家支援活動です。



レポート

# 10周年を迎えたシカゴ事務所 「若手芸術家支援プログラム」

Nippon Steel U. S. A.シカゴ事務所からのレポート

1992年に開設したシカゴ事務が続けてきたユニークな地域貢献活動が、10周年を迎え、記念式典が行われました。地元でも注目されているこの活動を紹介します。



シカゴ事務所内ギャラリーにて、これまで買い上げられた作品を囲んで

シカゴ事務所は1992年4月に、新日鉄の米国現地法人Nippon Steel U.S.A., Inc.の拠点として開設された。日本から輸出される薄板・条鋼製品と、イスパット・インランド・スチール社とのジョイントベンチャーであるI/N TEKで生産される薄板製品の営業・技術サービスを主な業務とし、業務地域は米国、カナダ、メキシコおよび南米の一部にまで及ぶ。

開設当初、事務所では文化活動の支援を通じてシカゴで地域貢献を果たしたいという趣旨で、シカゴ美術館付属美術大学（SAIC、The School of Art Institute of Chicago）の学生の作品を地元ビジネス・コミュニティに紹介することとした。これは、SAICの学生の作品を年1回公募、応募作品の中から約40点を選出し、夏冬2回に分けてシカゴ事務所内の常設ギャラリーに展示し、一般公開するもので、学生には奨学金が授与されている。SAICの正式行事としても認定され、米国新日

鉄はこの活動によりシカゴ美術館後援者（Benefactor of Art Institute of Chicago）の称号を与えられるとともに、シカゴ美術館入場口ホールには社名が刻印されている。

2002年からは夏冬各1点を米国新日鉄が買い上げる賞も設立し、SAICでも人気のあるプログラムとなっており、毎年500点以上の応募がある。



展示会プログラム

2月13日にシカゴのフォー・シーズンズ・ホテルで行われた

記念式典では今回選ばれた43名の学生が紹介され、来賓の挨拶があった。

シカゴ事務所では、今後ともこのプログラムを通じて、米国に深く根をおろした日本企業として積極的な地域貢献活動を続けていく。



プログラム・コーディネーター斉藤博子氏と歓談する所長の菊池淳（記念式典パーティーにて）



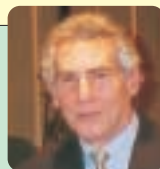
来賓挨拶をされるシカゴ総領事の坂場三男氏



**トニー・ジョーンズ氏**

SAIC学長兼シカゴ美術館専務理事

「1905年に東京からミスター・オガワという人がSAICに勉強に来ていたという記録があるように、SAICと日本の関係には歴史がありますが、そのなかでもこのプロジェクトは特に意義深いものと評価しています。新日鉄が学生の作品を展示して外部の方の目に触れる機会をつくってくれたことに感謝します」



**マイケル・ミラー氏**

版画科科長兼国際関係顧問  
（発足以来のSAIC側プログラム担当教授）

「1993年の第1回受賞作品披露パーティーで、この公募展覧は、協力と信頼からなる共同作業だと申し上げましたが、10年間の歴史がそのことを証明し、現在に活かされています。特にSAIC大学院卒業生で、プログラム・コーディネーターを続けてきた斉藤博子さんの献身的な働きは称賛に値します」